

2013年3月12日

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

## 3・11から2年、私たちは「被災地に音楽を」送り続けます

3・11から2年が過ぎました。誰もが体験した、あの日の揺れ。次々と報道される津波被害と福島第一原発の爆発におびえた日々。死者 15,879 人、不明 2,700 人(2013年1月9日現在)。避難生活者は 315,196 人(2013年2月7日現在)。その内、居住している県から他県に避難している方は、福島県から 57,135 人、宮城県から 7,981 人、岩手県から 1,627 人。

もう2年、まだ2年、時間のカウントは人それぞれですが、この数字を、しっかり事実として受け止めなければいけないと思います。日本フィルの「被災地に音楽を」の運動も2年が経過しました。今、なぜ「被災地に音楽を」送り続けるのか、私たちはこのように考えます。

- ① 被災された方たちに「みなさんことを忘れていない」ことを伝え、激励すること。
- ② 私たちが、訪問して演奏して見たこと感じたこと、まだ圧倒的に多数の方々が収容所のような仮設住宅で生活されていることを、被災地以外の人々に伝えること。
- ③ 演奏家自身が、困難な生活を余儀なくされている方々とふれあい、「音楽に何ができるか」を自らに問い合わせながら「忘れてはいけない」と心に刻むこと。

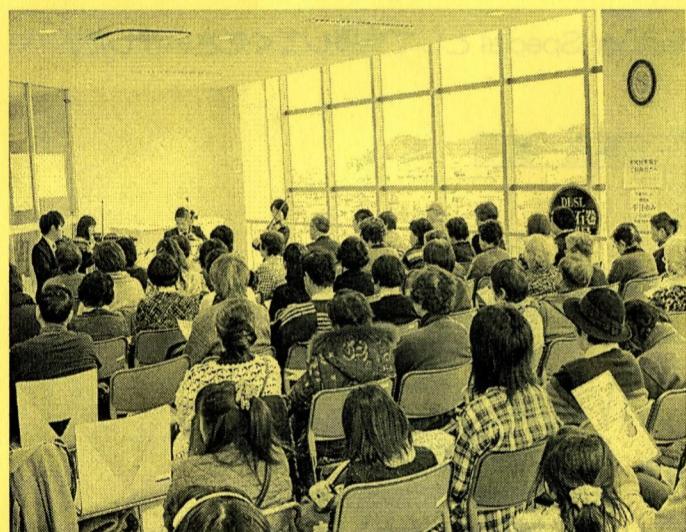
### <日本フィル弦楽四重奏が石巻で演奏をプレゼント>

~6月23日にカンタータ「大いなる故郷石巻」で日本フィルが友情出演~

3月3日から5日まで、宮城県石巻に行きました。今回の弦楽四重奏のメンバーはヴァイオリン田村昭博、太田麻衣、ヴィオラ中川裕美子、チェロ久保公人の4人です。

今回の石巻は、6月23日に石巻の作曲家故・小杉太一郎さんの作品「カンタータ・大いなる故郷石巻」の演奏会に友情出演する日本フィルが、公演に先立ち石巻市民交響楽団と市民合唱団のみなさんを激励することが目的です。10年ぶりの再演に取り組む実行委員会は、「石巻をたたえるこの曲を再演することで、まず自分たちが元気になりたい。勇気と誇りをもって新しい街をつくりたい」と語っています。市民

会館もホールも津波で流された石巻で、体育館に特設ステージをつくり、ふるさとを賛美するコンサートを実現させたい、というアマチュア音楽家たちの心意気に、心から拍手を贈りたいと思います。団長の足立さんは「2年経ってやっと音楽に打ち込んでみよう、という気持ちになりました」と語っています。



### <石巻市民オケと合唱団を激励>

3日は、仮庁舎となった石巻市役所の市民サロンで3時半の開演。リハーサルは議場となるいる会議室で行いました。コンサートの前座は地元の二人のピアニストが出演、地震の前に市役所が注文していたピアノがやっとお披露目されました。田村カルテットの演奏は、ハイドン：弦楽四重奏

曲「鳥」、ショスタコーヴィチ：「弦楽四重奏のためのアレグレット」など、市民オーケストラと合唱団の皆さんを意識した1時間半のプログラム。じっと目をつぶって聞き入る人も多く、音楽ファンがたくさん駆けつけていました。参加は100人で演奏後は「ブラボー！」の声が飛び交いました。



市役所にある町の再現模型で元の家をさがす子どもたち

### <初めて訪れた女川は壊滅的な被災状況>

4日は2時より、昨年も演奏した「こーぱのお家いしのまき」で。ディサービス利用の高齢者の方に加え、近隣の仮設住宅から60人ほどの方が参加され、80人の方が耳を傾けました。プログラムはモーツアルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク「1楽章」、パッヘルベル：カノン、「ハ木節」や「上を向いて歩こう」、チャイコフスキー：「花のワルツ」など、なじみのある曲ばかり。コンサート後は「桜餅」とお茶のサービスもあり、ホットするひと時を過ごされました。



コンサート後は、30分ほど離れた女川へ。狭い入り江に巨大な津波の押し寄せた女川は、壊滅的な被害を受けた地域で、(以下は裏面に続く)